

(様式 1-2)

I 学校の概要

明日も行きたくなる学校づくりプロジェクト事業

三豊市立山本小学校

◆児童数及び教員数

○児童数

R7.4.1 現在

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	特別支援	全校
2学級 37名	2学級 39名	2学級 49名	2学級 40名	2学級 43名	2学級 49名	4学級 17名	16学級 274名

○教員数 25名

◆学校の特徴

本校は、平成28年4月に、辻・大野・神田・河内の4校が統合して開校し、今年で10年目を迎える。児童数は274名、16学級（うち特別支援学級4学級）の中規模校であるが、ほとんどが山本幼稚園から入学しており、小さいころから気心が知れた友だちの中で過ごしている。三豊市内に2校しかない通級指導教室があり、三豊市内の通級指導の多くを担当している。自校通級、巡回通級など、通級指導に対するニーズは年々高くなっており、通級指導教員を2名配置して対応している。

児童は明るく元気で、素朴な児童が多い。本校の教育目標は「つながれ」「挑め」「役に立て」であり、縦割り班やペア学年での活動、ボランティア活動などを通して、異学年とつながったり、みんなの役に立つ行動を進んで行ったりすることができ、友だちや教師から感謝されたり評価されたりすることで、自尊感情が高い傾向がある。

II 研究主題等

研究主題

「チーム山本」で取り組む、安心して過ごせる環境づくり

◆研究主題設定の理由

本校は、不登校児童はいないが、朝の気分で時々登校を渋ったり休んだりする児童はおり、養護教諭や特別支援教育コーディネーター、SC（スクールカウンセラー）などが児童の心の安定を図りながらチームとなって関わっている。また、登校渋りのある児童やその保護者は、SCやSSW（スクールソーシャルワーカー）、三豊市の子育て支援課などの関係機関ともつながっており、児童の支援だけでなく、保護者の支援体制もできている。

また、家庭に不安を抱えている児童もおり、SSWや三豊市の子育て支援課、西部子ども相談センターなどと連携を図ったり、ケース会議を開いたりして対応している。

このように、様々な背景のある児童が、「明日も学校へ行きたい」と思うためには、学校が安心して過ごせる場所であり、魅力的な場所であればならない。それは教職員がチームとなって共通理解・共通実践をすることが重要であると考え、このような研究主題を設定した。

◆研究内容及び方法

① いじめ等のない安心して学べる学校づくり

- ・ 児童会役員を中心にいじめゼロ推進プロジェクトに参加し、そこで学んだことを全校児童に広めることで、児童からの発信でいじめ未然防止に努める。
- ・ 本校には「通級指導教室」があり、通常の学級で配慮の必要な児童にとって安心して学べる場所となっている。通級指導教員の技能を若年教員に伝える場を設定し、児童理解を深めたり、適切な支援を行ったりする。
- ・ SSR（スーパーサポートルーム）を活用し、情緒の安定を図る。

② 心の小さなSOSの早期発見・早期対応

- ・ 2名のSC（80時間・60時間）による授業参観や面談により、児童や保護者の困り事を早期に発見し、心のケアを行う。
- ・ SSW や子育て支援課などの関係機関と日常的な情報交換を継続することで、児童と保護者の心の安定を図る。必要に応じてケース会議を開き、児童や保護者の現状については校内で情報を共有し、全職員が同方向で指導をする。
- ・ カード等を利用したSOSの出し方指導を継続するとともに、毎月末のアンケートで実態把握に努める。

③ 児童生徒が不登校とならない、児童生徒にとって魅力ある学校づくり

- ・ 児童会を主体とした児童中心の楽しい学校づくりを行う。目標達成時のお楽しみコンサート（さんさんコンサート）等、児童がアイデアを出し、自ら実現できるよう支援する。
- ・ ボランティア活動（ボランティアボード）、キラリカード、がんばりの木などの取組を行い、自分のがんばりを視覚化したり、他者から認められたりすることで自己有用感を高めることのできる活動を取り入れる。
- ・ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行う。ICTを効果的に活用し、どの児童にも分かりやすい授業を展開することで、充実感や達成感が得られるようにする。

Ⅲ 研究成果の普及方法

- ・ 各種調査結果やチーム学校としての取り組みを香川の教育づくり等で県内の小・中学校に紹介する。
- ・ 学校保健委員会や学級PTA、新入生入学説明会等の際に、保護者に取り組みの結果を伝え、保護者啓発を行うとともに、保護者にも協力を依頼する。
- ・ 学校運営協議会で結果を公表し、地域や関係機関との連携をさらに強める。